

令和5年度 八幡市商工会 経営発達支援事業実績と評価

計画で必要とされる事業内容	5カ年計画における令和5年度の実施概要	令和5年度実施事業（P）と実績（D）※注	定量的評価（C）	定性的評価（C）と今後（令和6年度）の方向（A）
<p>①地域の経済動向調査</p> <p>・地域の経済、消費動向を把握し、分析データをもって事業計画策定の支援を行う。</p>	<p>①-1 小規模事業者に対する市内経済等動向調査 ○6業種別(卸売業・小売業、サービス業、製造業、飲食サービス業、建設業、運輸業)各20社を選定し、業況、在庫、取引先等をヒアリング ○令和5年度目標：120社</p> <p>①-2 中小企業白書等の分析による地域経済動向調査 ○中小企業白書等のデータを活用し、小規模事業者の事業計画策定や販路開拓支援を実施</p> <p>①-3 商工会内で「フィードバックミーティング」を定期的に開催。経営支援員間の情報共有と能力向上を図る。</p> <p>①-4 調査・分析結果は商工会のホームページ等で事業者へ情報提供・周知</p>	<p>①-1 市内経済等動向調査 ○調査期間：令和5年9月～12月 ○調査回答事業所数：120社 ○業種：卸売業・小売業、サービス業、製造業、飲食サービス業、建設業、運輸業</p> <p>①-2 地域経済分析システム(RESAS)を活用。周辺地域の「長岡京市」「京田辺市」と比較、分析。</p> <p>①-3 毎月定例会議にて情報共有</p> <p>①-4 ①-2の分析結果を商工会ホームページにて周知</p>	<p>A (A)</p>	<p>①-1 全会員対象に調査票を郵送（返信用封筒同封）。会員事業所数が業種により偏りがある為、均等に業種別に回収することが難しかったが、全体の目標数が達成できた。</p> <p>①-2,3,4 経営支援員が会員事業所へ巡回する際、必要に応じて提供資料として活用するとともに、ホームページ上に掲載し、広く周知を行った。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>今後、継続的に実施・分析、支援員で共有、事業所へ提供することで、経営分析の資料として活用するとともに、創業相談時にも活用し、創業者支援に役立てる。</p> </div>
<p>②需要動向調査</p> <p>・アンケートにより需要動向を調査し、データを蓄積、事業計画の内容や新商品・サービス等の構築を目指す。</p>	<p>② 特産品等の認定制度構築を見据えた需要動向調査 ○供給側の対象として老舗の菓子店、茶舗、農業法人等、需要者側として50人にアンケート（ヒアリング含む）を実施。調査結果を基に新商品の開発を目指す。 ○令和5年度目標：ヒアリング対象者 20商品</p>	<p>② 東京ビッグサイトで開催された展示会会場や、「やわたフェスタ」会場及び、事業所の店舗内で、需要動向調査を実施 ○ヒアリング事業所数：6社 ○ヒアリング商品数：12商品 ○アンケート延べ回答数：337人</p>	<p>B (C)</p>	<p>② 調査場所は、市内で実施した「やわたフェスタ」会場だけでなく、一部商品は、東京で実施された展示会場等でも調査したことで、地域・客層が異なるデータが収集でき、有益な情報が事業所へフィードバックできた。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>■目標Ⅳに係り、マーケットインの考えの下、新商品等の開発や改良に向けて事業実施し、やわたブランド「ヤワタカラ」の商品認定を目指す。</p> </div>
<p>③経営状況の分析</p> <p>・経営分析に基づき、事業者の経営状況に沿った支援と指導の充実を図る。</p>	<p>③-1 経営支援員による巡回・窓口相談対応時の経営分析調査（財務、SWOT等） ○令和5年度目標：36件</p> <p>③-2 事業計画策定セミナーによる経営分析 ○令和5年度目標：セミナー開催 2回 参加者数 25人</p> <p>③-3 分析結果の活用 ○調査対象事業者への提供及び商工会内でデータベース化</p>	<p>③-1 巡回・窓口対応時に調査。ロカベン等を活用し分析 ○分析事業所数：26件</p> <p>③-2 事業計画策定セミナー及び個別相談会の開催【セミナー】 ○実施日：令和5年9月25日、10月2日の2回開催 ○参加人数：延べ23名</p> <p>③-3 分析結果のデータベース化</p>	<p>B (B)</p>	<p>③-1 ロカベン等を活用し、経営分析を実施したことで、各種補助金申請や経営課題の発見に繋がった。</p> <p>③-2 ロカベン活用セミナーを開催し、セミナー内でロカベンを作成。経営状態を把握できたことで、経営課題の発見に繋がった。</p> <p>③-3 分析結果のデータベース化により、内部で共有を行った。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>■目標Ⅲに係り、事業計画策定後、3年間、進捗状況等のフォローしていく必要があることから、引き続き継続的な伴走支援を行っていく。</p> </div>
<p>④事業計画策定支援</p> <p>・地域経済、需要動向調査及び経営分析の結果を踏まえた事業計画の策定を支援する。</p>	<p>④ ③-2による事業計画セミナー終了後、意欲ある事業者に対しヒアリングを実施。事業計画策定まで伴走支援を行う。 また、巡回・窓口相談時にも、事業計画策定に意欲ある事業所を伴走支援する。 ○令和5年度目標：事業計画策定事業所累計 18件</p>	<p>④ 事業計画策定支援【専門家による個別相談会】 ○実施日：令和5年10月11日、20日、11月8日、30日の4日間 ○実施事業所数：5事業所（延べ7回） 【計画策定支援】 ○事業所数：35件(内、セミナー受講者 6件) 【内訳】○持続化補助金 8件 ○ものづくり補助金 1件 ○チャレンジ補助金 2件 ○創業支援 1件 ○知恵の経営報告書 1件 ○その他 22件</p>	<p>A (A)</p>	<p>④ セミナー参加者を対象に、ロカベン完成に向けた専門家による個別相談を実施。経営課題の発見と、解決策を検討し、事業計画策定支援を行った。 また、随時、巡回・窓口による事業計画策定相談に対して、計画書を支援員間で情報共有したことで、質の高い支援ができ、支援能力の向上も図れた。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>■目標Ⅲに係り、引き続き継続して、事業計画策定（補助金申請に係る計画書作成含む）の伴走支援を行っていく。</p> </div>

令和5年度 八幡市商工会 経営発達支援事業実績と評価

計画で必要とされる事業内容	5カ年計画における令和5年度の実施概要	令和5年度実施事業（P）と実績（D）※注	定量的評価（C）	定性的評価（C）と今後（令和6年度）の方向（A）
⑨他の支援機関との連携を通じた情報交換 ・他の支援機関や専門家等との意見交換、意思疎通を行う。	⑨-1 八幡市地域活性化協議会（仮称）の設立 ○商工会が主宰し、市域の商工業振興の課題の深堀り、活性化の方策や支援方法の立案、ノウハウの伝授・交換等、構成機関・団体相互の意見交換・意思疎通を図る。 ⑨-2 エキスパートバンク事業等の活用による懇談会への参加	⑨-1 経営発達支援計画事業検討・評価委員会を開催。同委員会に八幡市地域活性化協議会（準備会）として位置付け委員会と同時開催（再掲⑦-1） ⑨-2 エキスパートバンク事業懇談会への参加 ○開催日：令和5年12月8日	B (B)	■目標Ⅰ～Ⅳに係り、経営発達支援計画の重点事項である「八幡市地域活性化協議会（仮称）」設立に向けた取組を進める。
⑩地域経済の活性化に資する取組 ・小規模事業者の経営の改善発達は地域経済の活性化と不可分であることに鑑み、地域の総合的経済団体として行う事業。	⑩-1 八幡市地域活性化協議会（仮称）の開催 ⑩-2 「まちゼミ」の開催 ⑩-3 「異業交流会（業コン等）」の開催（再掲）	⑩-1 八幡市地域活性化協議会（仮称）準備会の開催（再掲⑦-1） ⑩-2 「まちゼミ」の開催 ○開催日：令和5年8月10日～9月10日 ○参加事業所：28事業所 ○講座数：38講座 ○参加延べ人数：351名 ⑩-3 「異業交流会（業コン等）」の開催（再掲⑥-2）	B (B)	⑩-2 第4回「まちゼミ」を開催。まちゼミリーダーを中心に初のSNSを活用した広告宣伝を実施したことで、前回より参加延べ人数が増加した。 ■目標Ⅰ～Ⅳに係り、経営発達支援計画の重点事項である「八幡市地域活性化協議会（仮称）」設立に向けた取組を進める。 また、引き続き「まちゼミ」「異業種交流会」の実施に向けて進める。

※注 5年の計画期間中に実施する取組の中で、令和5年度に実施するとした事業を記載しています。

【事業実績評価基準】

< 定量的評価 >

○ 各事業項目の目標値の達成状況で評価

- 評価A：目標を達成することができた（95%以上）
- 評価B：目標を概ね達成することができた（80～94%）
- 評価C：目標を半分程度しか達成することができなかった（30～79%）
- 評価D：目標を殆ど達成することができなかった（30%未満）

※評価の()内は、令和4年度の評価になります。

< 定性的評価 >

○ 経営発達支援計画の目標項目に係る評価と次のアクション

- 目標Ⅰ：事業承継者の持続的発展
- 目標Ⅱ：創業、第二創業支援による新規小規模事業者の定着
- 目標Ⅲ：「強み」を活かした経営に取り組む小規模事業者の育成
- 目標Ⅳ：観光入込客数に見合った観光消費額の増大

【評価の流れ】

